

警察活動等に関する 道民の意識調査結果



令和4年10月

北海道警察本部

調査実施状況

1 調査目的

犯罪や事故のない安心して暮らせる北海道の実現に向けて、北海道警察の重要課題や主要施策について、道民の意識を調査してニーズを把握し、各種施策に反映させることを目的とする。

2 調査項目

(1) 調査対象者に関する事項

ア 性別（2区分）

男性、女性

イ 年代（5区分）

20歳代以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代

ウ 居住地域（4区分）

札幌市、人口10万人以上の市、同10万人未満の市、町・村

(2) 調査事項

ア 北海道の治安

イ 北海道警察の活動

ウ 特殊詐欺の認知度と対応状況等

エ サイバー空間における安全・安心

3 調査方法

(1) 調査期間 令和4年5月、6月中

(2) 調査地域 北海道全域

(3) 調査対象者 北海道に居住する運転免許更新者（19～69歳の男女）

(4) 調査対象数 1,343人（配布数）

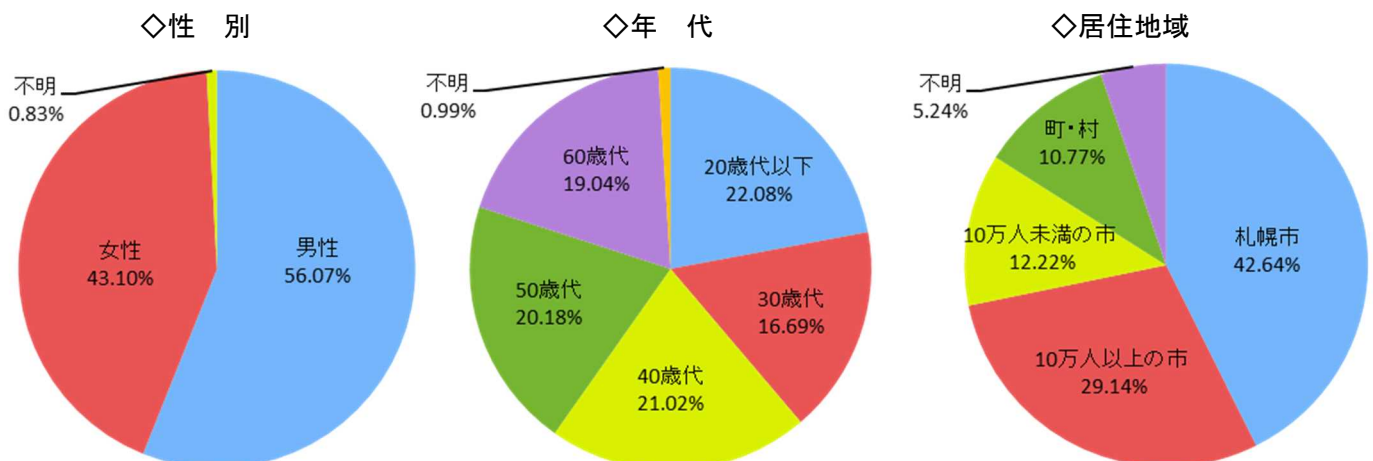
(5) 抽出方法 北海道内の運転免許試験場の免許更新者から無作為に抽出

4 調査対象者の概要

(1) 有効回答者（率）1,318人（98.14%）～全ての質問の半数以上を適切に回答した方

(2) 無効回答者（率）25人（1.86%）～有効回答者以外の方

5 有効回答者の構成



6 調査結果に関する留意事項

(1) 回答率

原則として％（パーセンテージ・百分率）で表記しており、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点第２位までを表記しているため、回答率を合算した場合、100％にならない場合がある。

(2) 複数回答

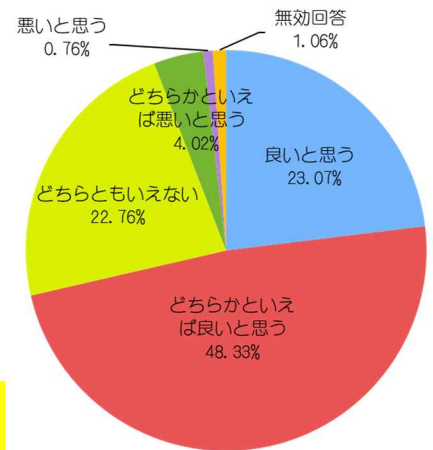
１人の回答者が２つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）の場合、通常その回答率の合計は100％を超える。

1 北海道の治安

問1 北海道の治安についてどのように思いますか。

※（ ）内の数値は、昨年調査時と比較したもの

「良いと思う」	23.07% (+0.49pt)
「どちらかといえば良いと思う」	48.33% (+4.96pt)
「どちらともいえない」	22.76% (-2.45pt)
「どちらかといえば悪いと思う」	4.02% (-2.88pt)
「悪いと思う」	0.76% (-1.02pt)
「無効回答」	1.06% (+0.90pt)



「どちらかといえば良いと思う」が最も多く約48%を占め、次いで「良いと思う」「どちらともいえない」となっています。

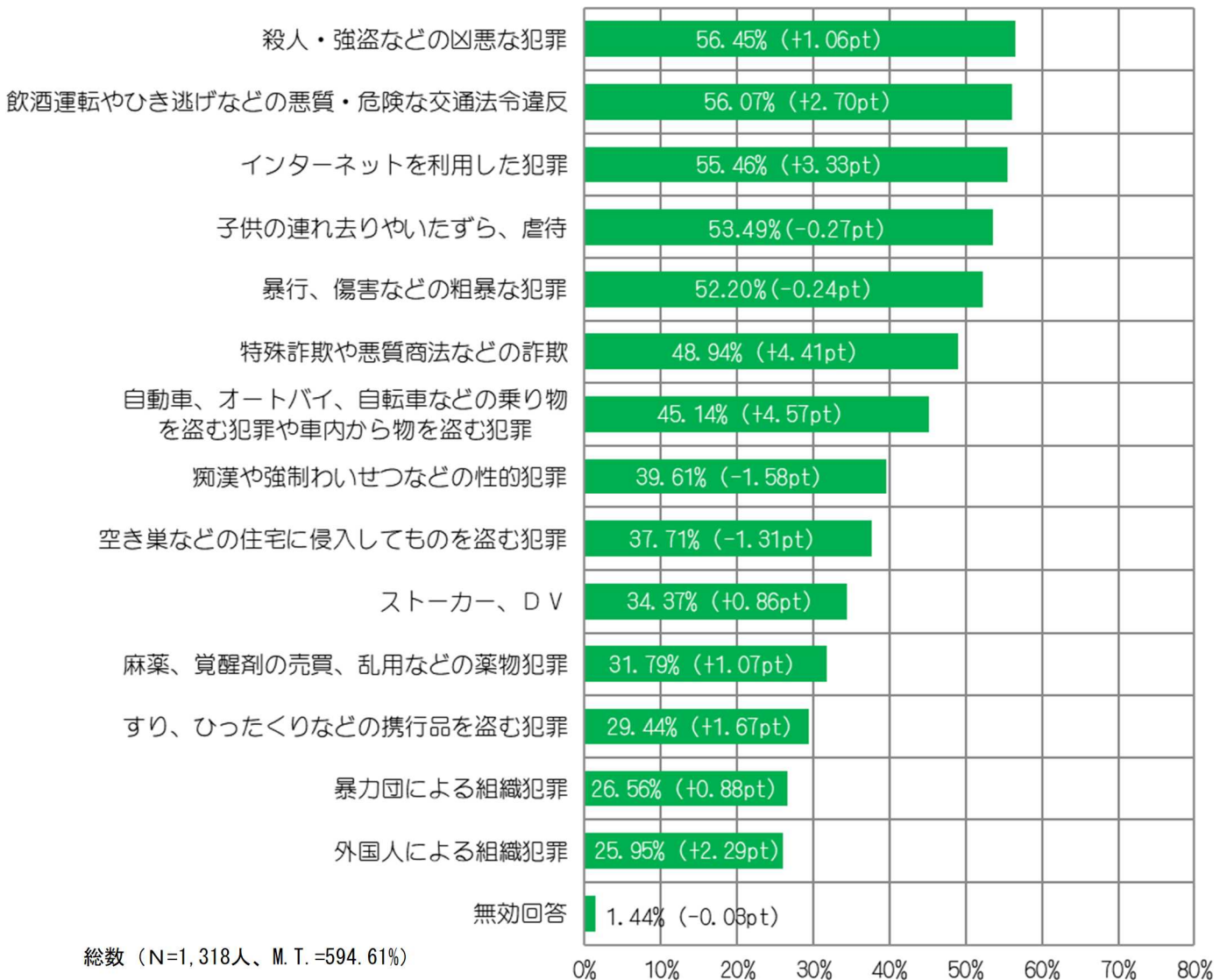
「悪いと思う」は最も少なく約0.8%でした。

「良い層」を合わせると約71%の方が「治安は良い」と思っています。

※「良い層」71.40% (+5.45pt)
「悪い層」4.78% (-3.90pt)

問2 不安を感じる犯罪や特に力を入れて取り締まってほしい犯罪は何ですか。(複数回答)

※（ ）内の数値は、昨年調査時と比較したもの



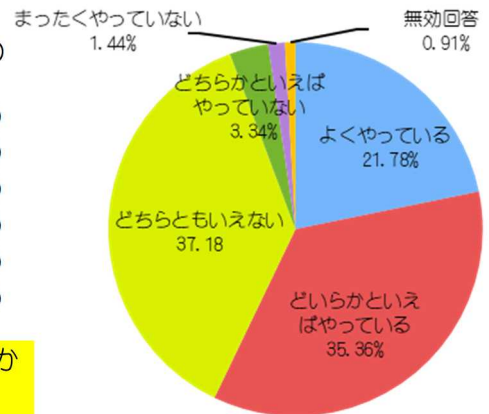
「殺人・強盗などの凶悪な犯罪」が最も多く約56%を占め、次いで「飲酒運転やひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」「インターネットを利用した犯罪」となっています。

2 北海道警察の活動

問3 北海道警察の活動をどのように感じていますか。

※（ ）内の数値は、昨年調査時と比較したもの

「よくやっている」	21.78% (-0.49pt)
「どちらかといえばやっている」	35.36% (+2.70pt)
「どちらともいえない」	37.18% (-1.22pt)
「どちらかといえばやっていない」	3.34% (-1.55pt)
「まったくやっていない」	1.44% (-0.34pt)
「無効回答」	0.91% (+0.91pt)

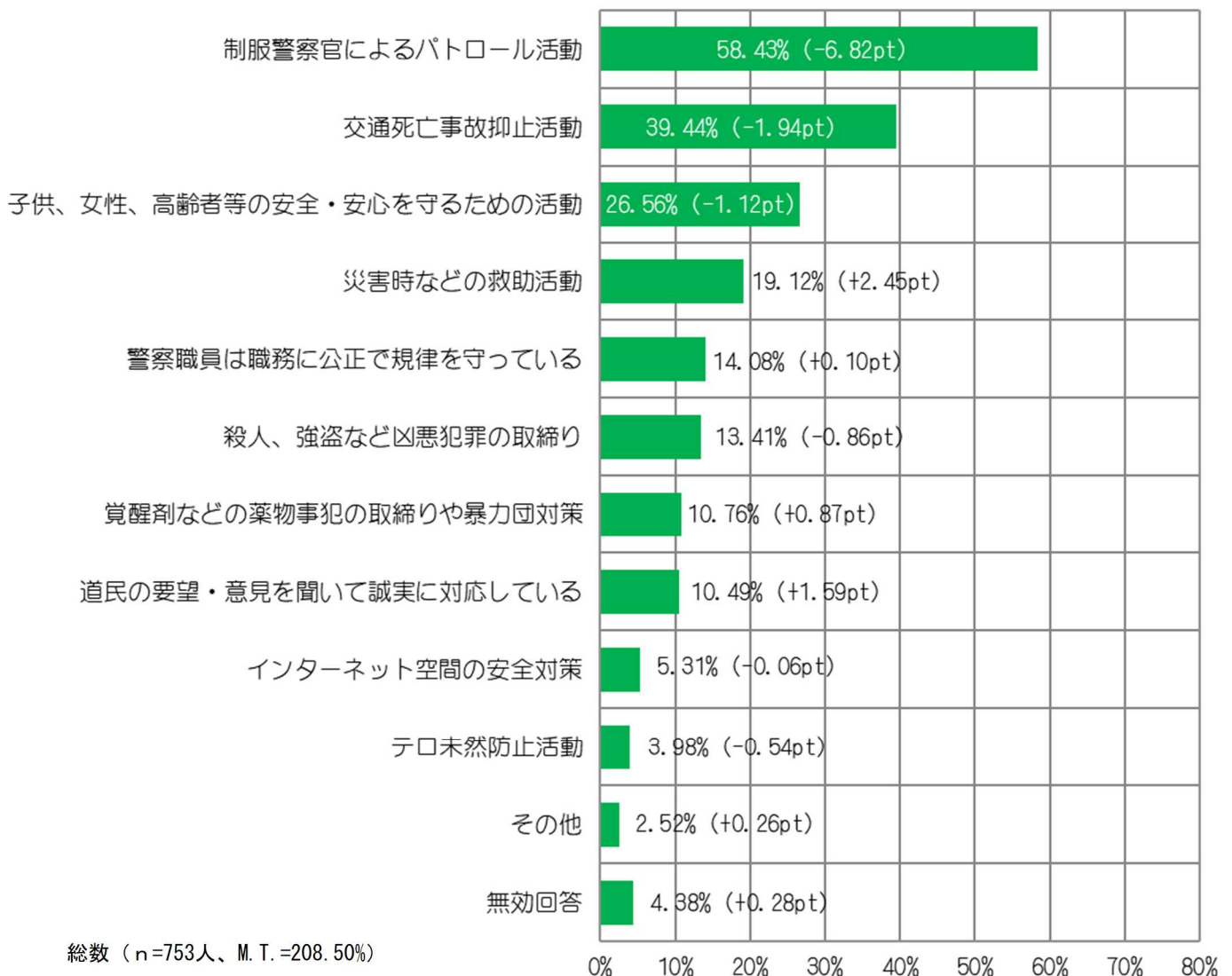


「どちらともいえない」が最も多く約37%を占め、次いで「どちらかといえばやっている」「よくやっている」となっています。
「まったくやっていない」は最も少なく約1.4%でした。
「やっている層」を合わせると約57%の方が「やっている」と感じています。

※「やっている層」 57.14% (+2.21pt)
「やっていない層」 4.78% (-1.89pt)

問4 問3で「よくやっている」「どちらかといえばやっている」と答えた方（57.14%）の理由（複数回答）

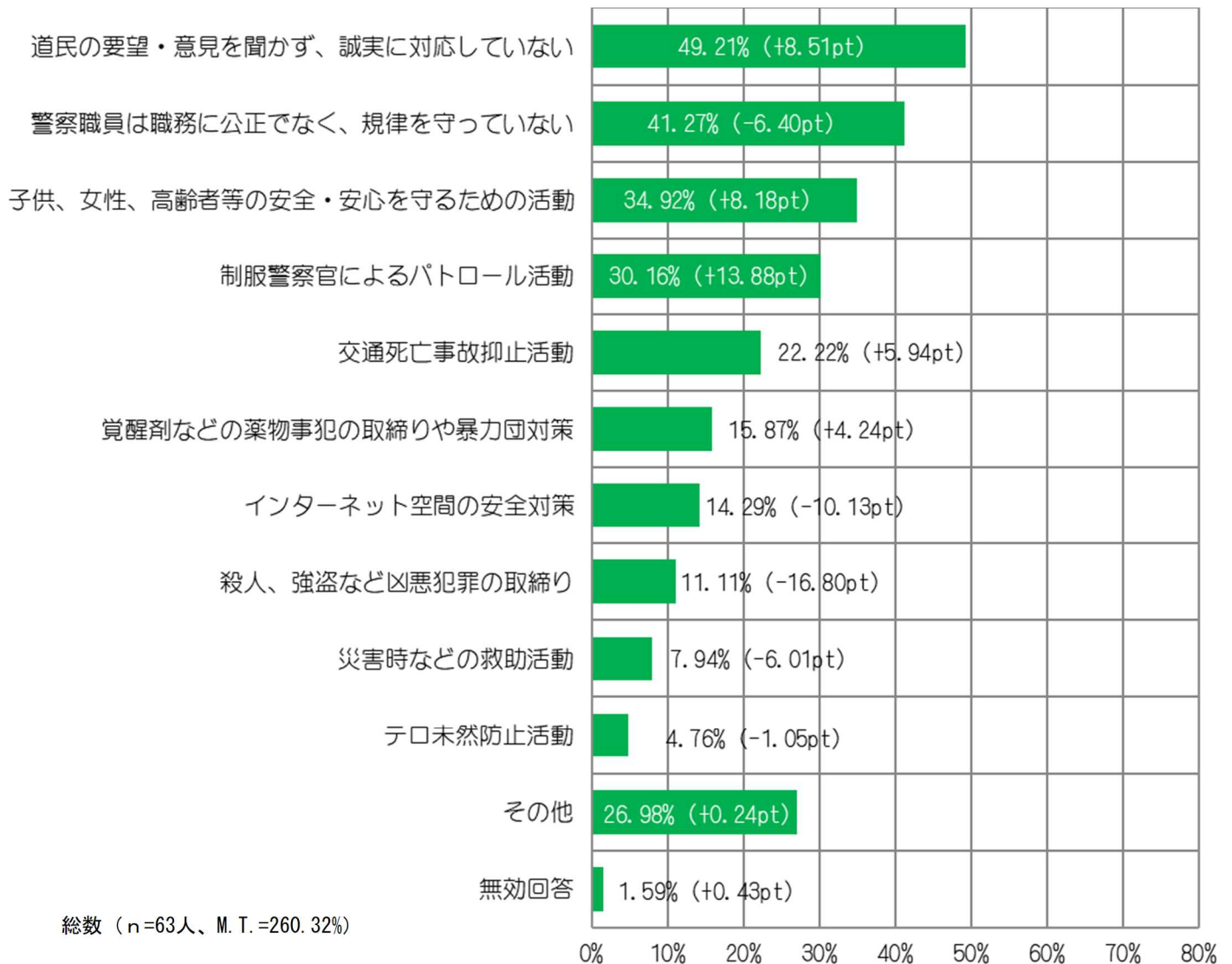
※（ ）内の数値は、昨年調査時と比較したもの



「制服警察官によるパトロール活動」が最も多く約58%を占め、次いで「交通死亡事故抑止活動」「子供、女性、高齢者等の安全・安心を守るための活動」となっています。

問5 問3で「まったくやっていない」「どちらかといえばやっていない」と答えた方（4.78%）の理由（複数回答）

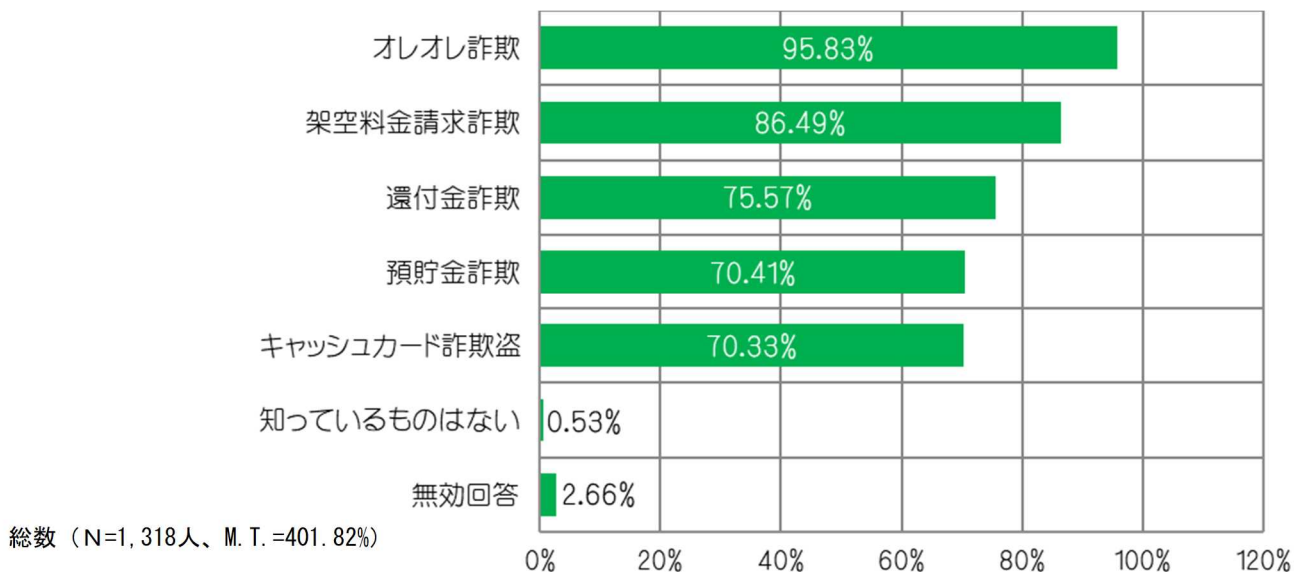
※（ ）内の数値は、昨年調査時と比較したもの



道民の要望・意見を聞かず、誠実に対応していない」が最も多く約49%を占め、次いで「警察職員は職務に公正でなく、規律を守っていない」「子供、女性、高齢者等の安全・安心を守るための活動」となっています。

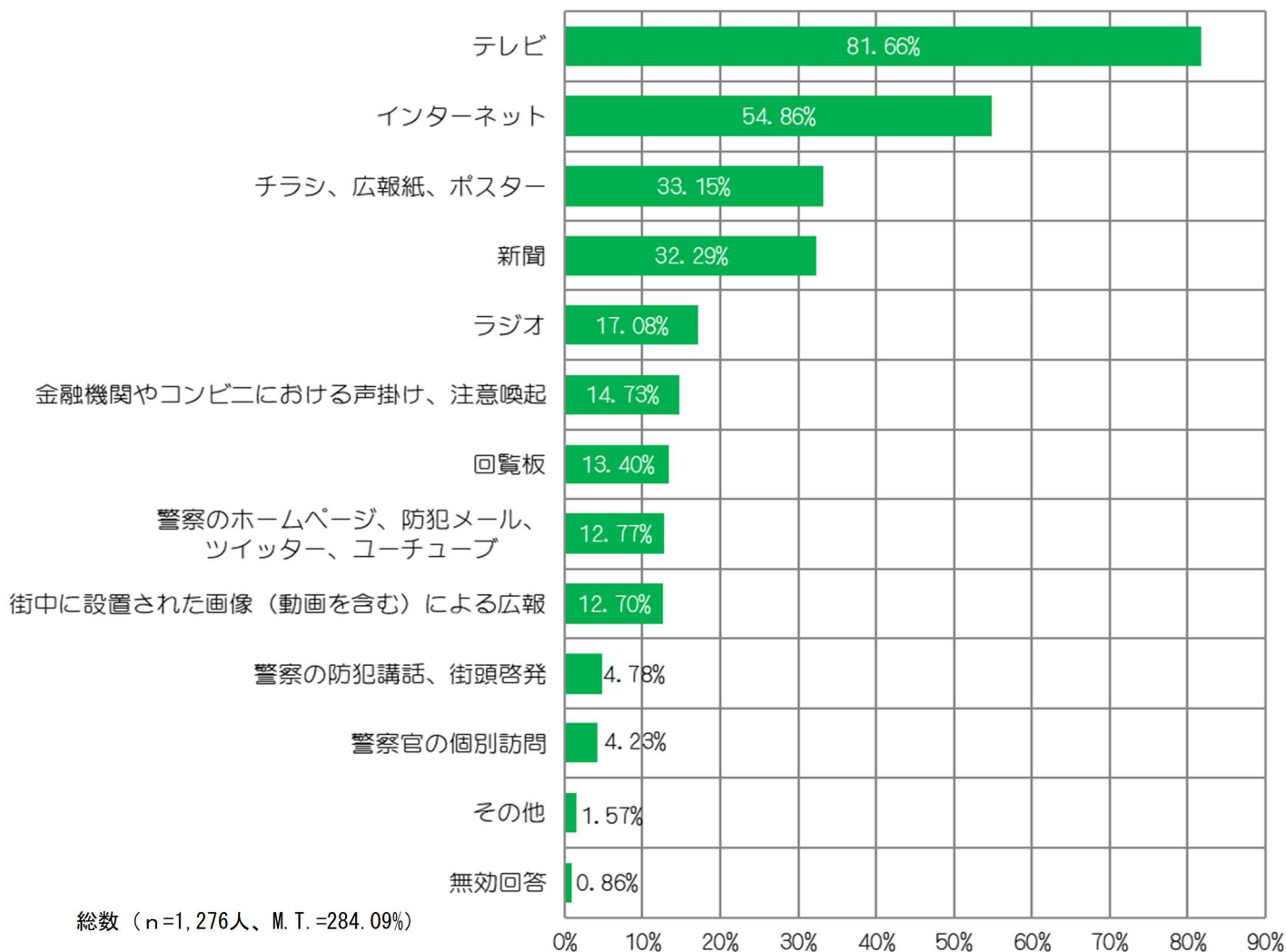
3 特殊詐欺の認知度と対応状況等

問6 特殊詐欺の手口として、どのようなものを知っていますか。（複数回答）



「オレオレ詐欺」が最も多く約96%を占め、次いで「架空料金請求詐欺」「還付金詐欺」となっています。「知っているものはない」は最も少なく約0.5%でした。

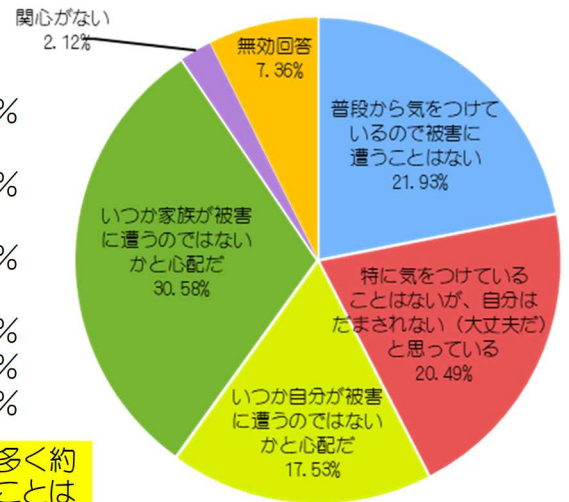
問7 問6で知っている手口があると答えた方（96.81%）の情報入手方法（複数回答）



「テレビ」が最も多く約82%を占め、次いで「インターネット」「チラシ、広報紙、ポスター」となっています。

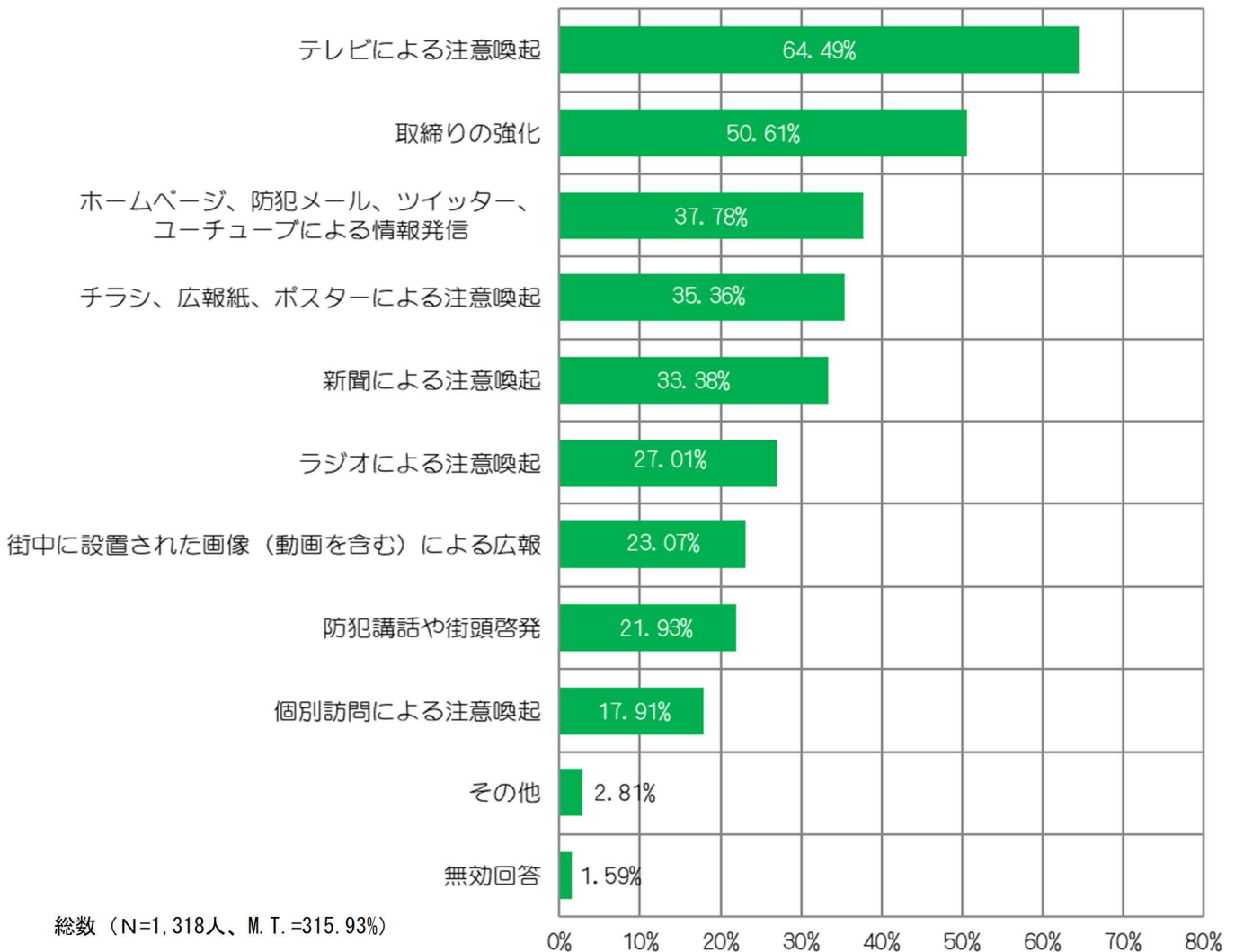
問 8 特殊詐欺に対する意識

「普段から気をつけているので被害に遭うことはない」	21.93%
「特に気をつけていることはないが、自分はだまされない（大丈夫だ）と思っている」	20.49%
「いつか自分が被害に遭うのではないかと心配だ」	17.53%
「いつか家族が被害に遭うのではないかと心配だ」	30.58%
「関心がない」	2.12%
「無効回答」	7.36%



「いつか家族が被害に遭うのではないかと心配だ」が最も多く約31%を占め、次いで、「普段から気をつけているので被害に遭うことはない」「特に気をつけていることはないが、自分はだまされない（大丈夫だ）と思っている」となっています。

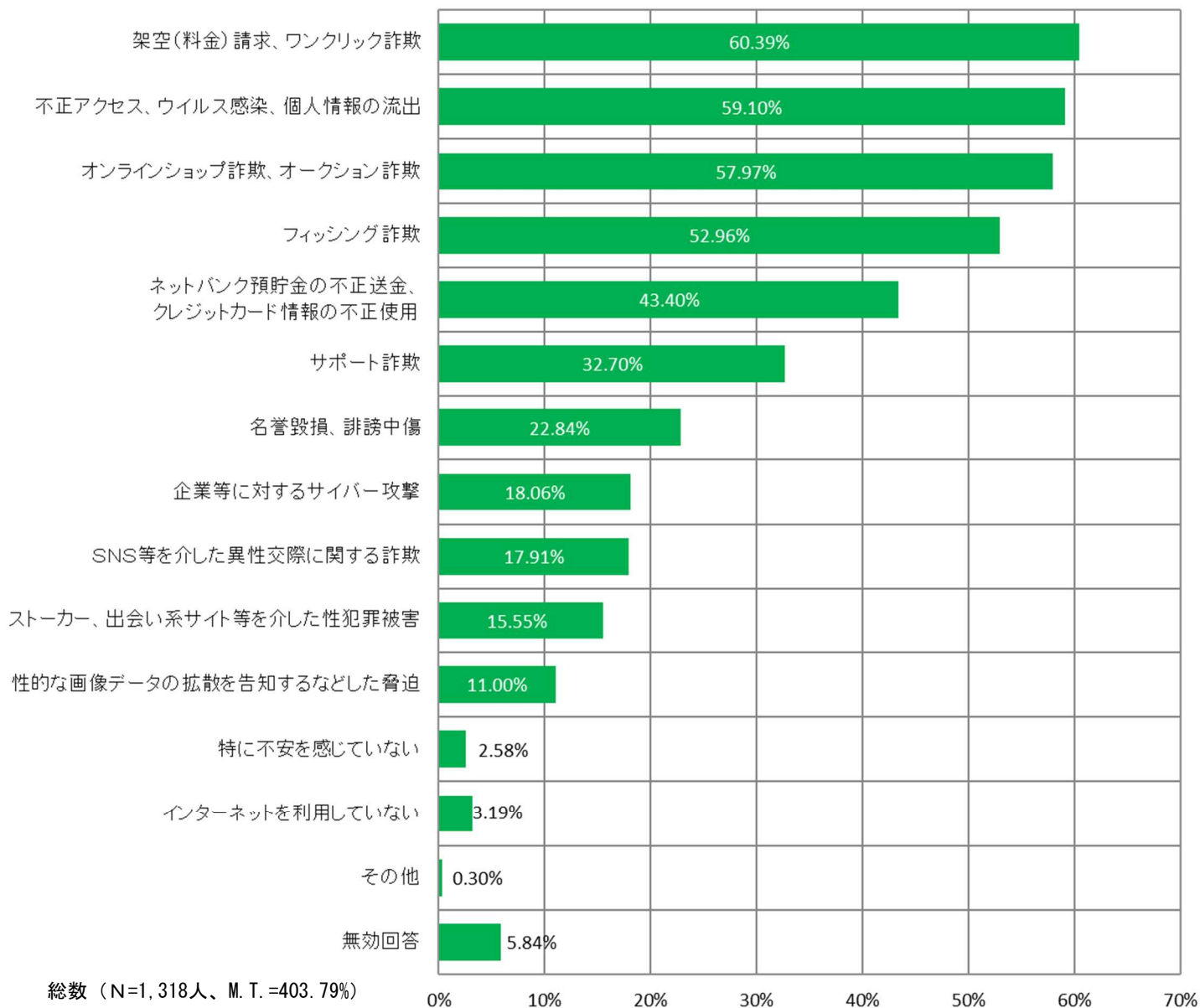
問 9 特殊詐欺被害を防止するため、警察が取り組むべき対策



「テレビによる注意喚起」が最も多く約64%を占め、次いで「取締りの強化」「ホームページ、防犯メール、ツイッター、ユーチューブによる情報発信」となっています。

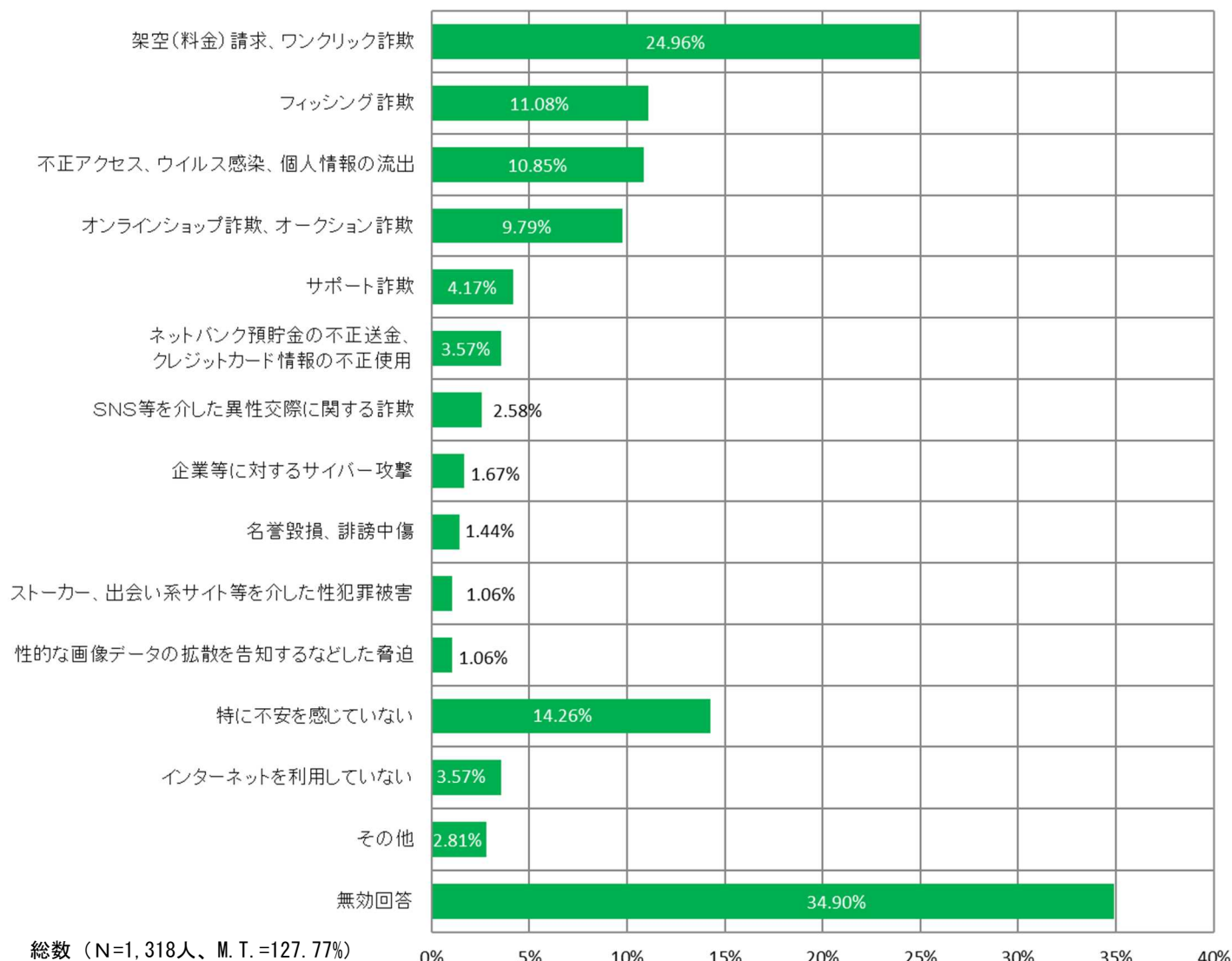
4 サイバー空間における安全・安心

問 10 インターネットの利用について、不安に感じる犯罪や被害は何ですか。(複数回答)



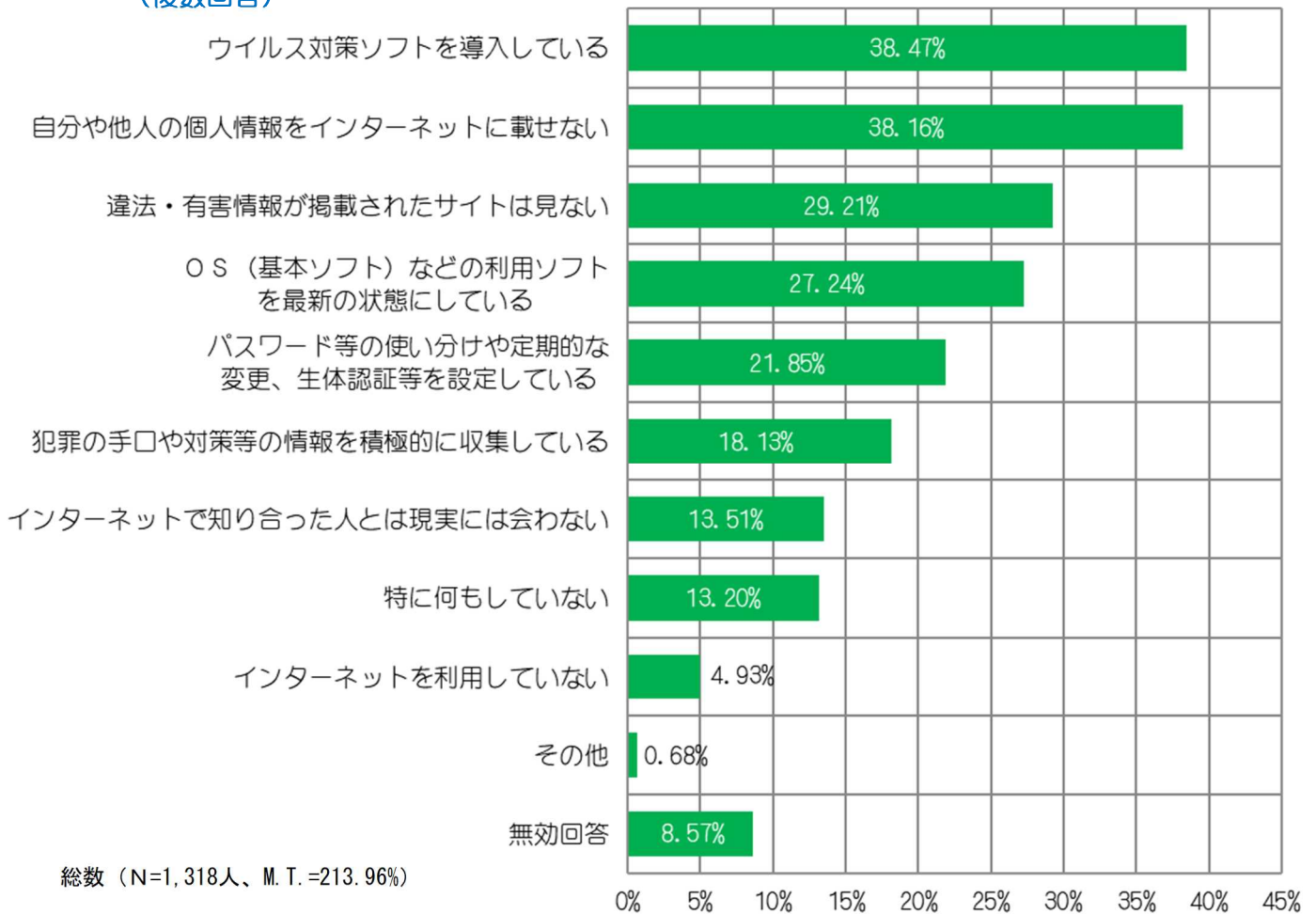
「架空(料金)請求、ワンクリック詐欺」が最も多く約60%を占め、次いで「不正アクセス、ウイルス感染、個人情報の流出」「オンラインショップ詐欺、オークション詐欺」となっています。

問 11 インターネットの利用について、実際に被害に遭った、または被害に遭いそうになった経験がありますか。(複数回答)



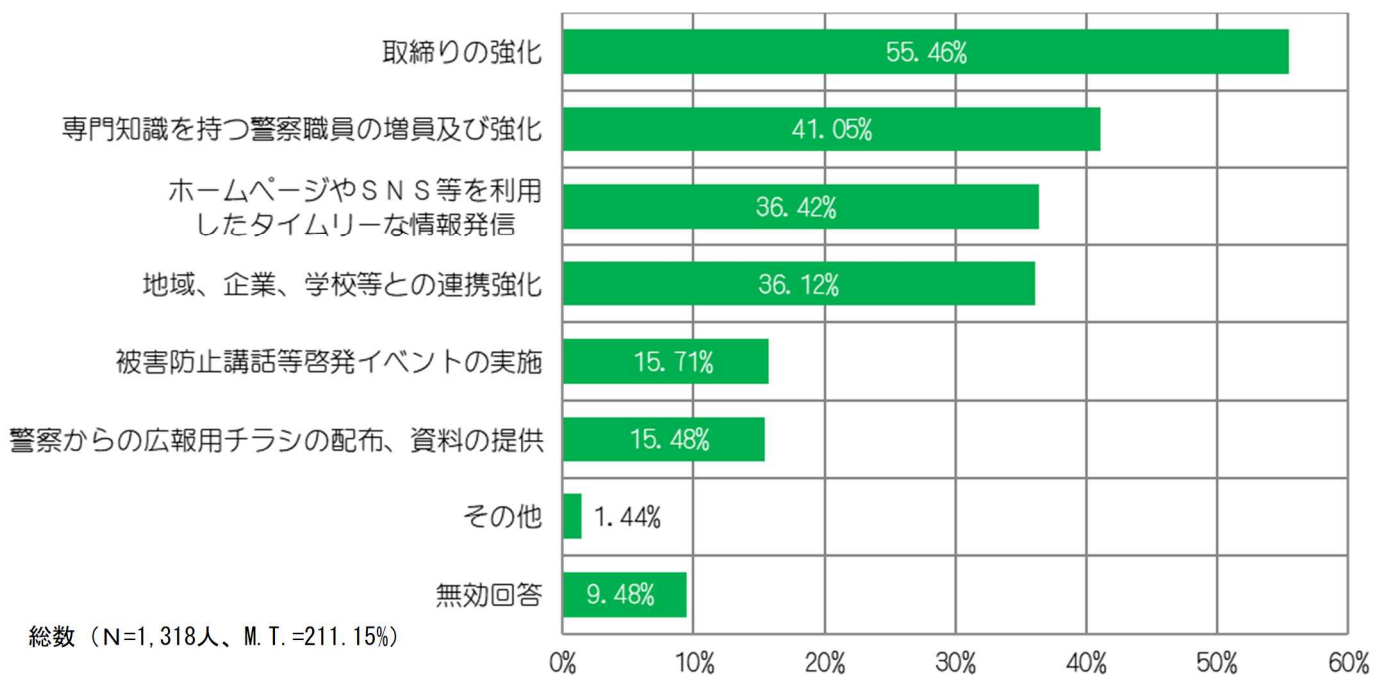
「架空(料金)請求、ワンクリック詐欺」が最も多く約25%を占め、次いで「フィッシング詐欺」「不正アクセス、ウイルス感染、個人情報の流出」となっています。

問 12 インターネット空間の犯罪被害に遭わないためにどのような対策をしていますか。
(複数回答)



「ウイルス対策ソフトを導入している」が最も多く約38%を占め、次いで「自分や他人の個人情報をインターネットに載せない」「違法・有害情報が掲載されたサイトは見ない」となっています。

問 13 インターネット空間の安全を守るため、警察にどのような活動を期待しますか。
(複数回答)



「取締りの強化」が最も多く約55%を占め、次いで「専門知識を持つ警察職員の増員及び強化」「ホームページやSNS等を利用したタイムリーな情報発信」となっています。